

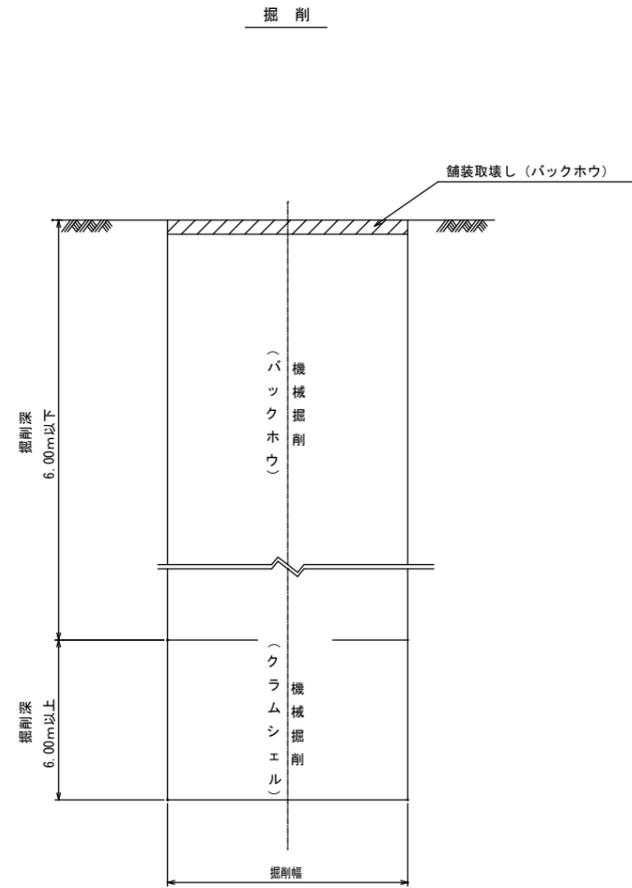
## 下水道工事標準構造図一覧表

令和5年6月1日改定

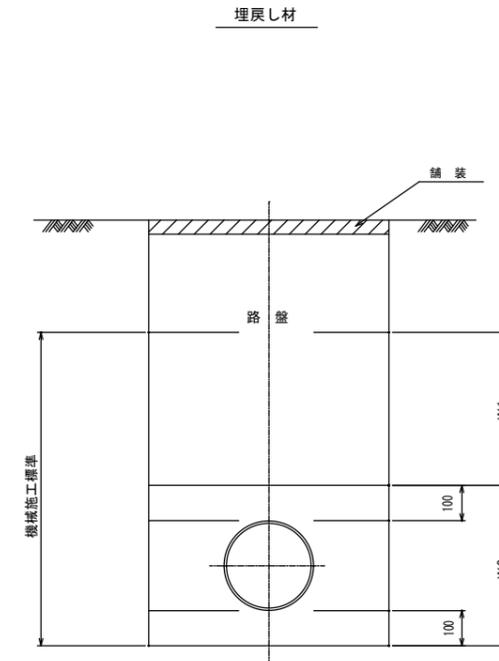
図面番号	図面名称
1	土工定規図(その1)
2	土工定規図(その2)
3	硬質塩化ビニル管・リブ付硬質塩化ビニル管砂基礎標準図
4	軽量鋼矢板・アルミ矢板土留設置工標準図
5	0号組立マンホール標準図
6	1号組立マンホール標準図
7	馬蹄(A1号)・楕円形(E1号)組立マンホール標準図
8	小口径マンホール構造図(コンクリート製)
9	小口径マンホール構造図(塩化ビニル製)
10	マンホール用可とう継手構造図(参考)
11	マンホール用内副管継手構造図及び外副管構造図
12	汚水取付管布設標準図
13	市道舗装復旧詳細図
14	県道舗装復旧詳細図(その1)
15	県道舗装復旧詳細図(その2)
16	県道舗装復旧詳細図(その3)

土工定規図（その1）

矢板土留管渠布設図



埋戻し断面図



※1：原則は在来土を使用するものとする。但し、在来土の土質状況が悪くて使用不可能な場合は改良土または購入土（良質土）とし、又は道路管理者からの占用条件があればそれに従うものとする。

※2：たわみ性管においては、砂基礎工を参照。  
剛性管においては、原則、在来土を使用するものとする。（基礎部除く）但し、在来土の土質状況が悪くて使用不可能な場合は、改良土、または購入土（良質土）とし、道路管理者からの占用条件があればそれに従うものとする。

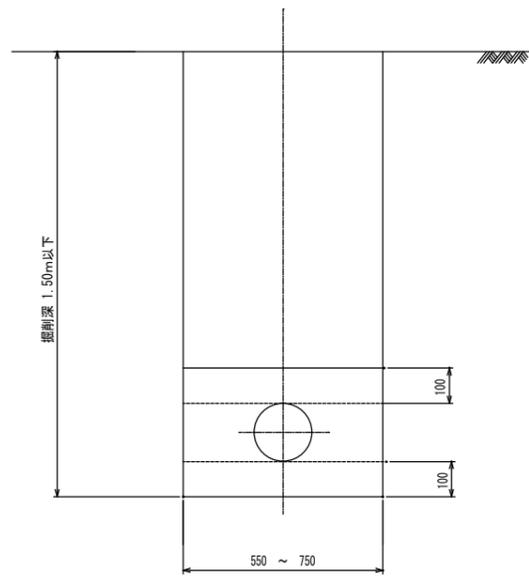
※3：下水道本管の埋設表示テープ（W=150 二重折込式）は、管頂+500に設置すること。  
ただし、下水道本管で土被りが0.85mより浅い場合及び取付管の場合は、管頂+300に設置すること。

図名	土工定規図（その1）		
分類		図番	1
稲 沢 市			

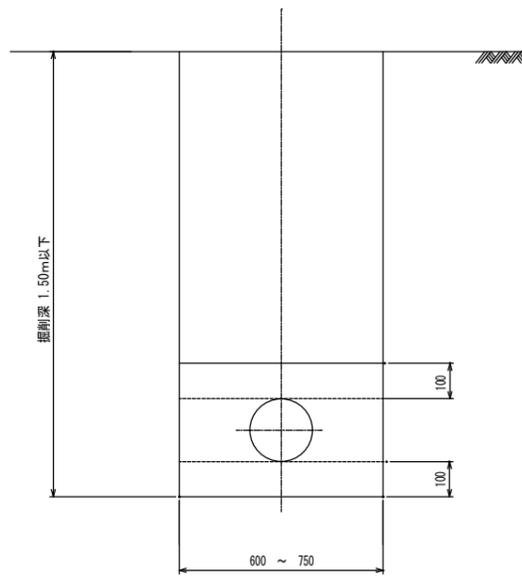
土工定規図 (その2)

素堀掘削管渠布設図

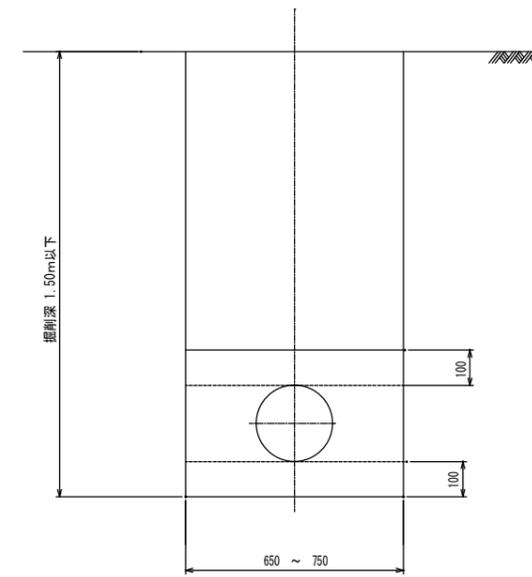
塩ビ管φ150



塩ビ管φ200

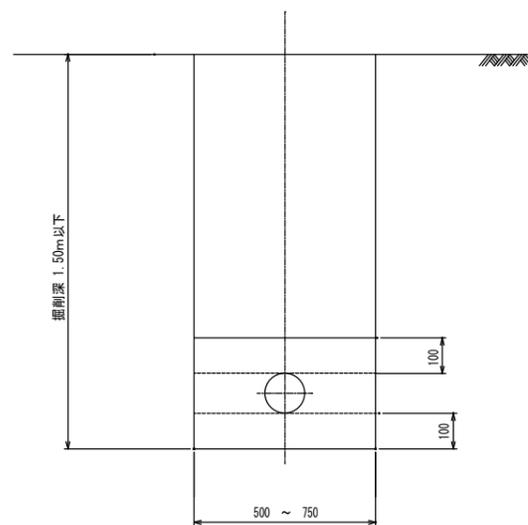


塩ビ管φ250



取付管

塩ビ管φ100



注：人力で管布設する場合は、床付けから80cm上の位置で掘削幅60cm（人の肩幅）程度以上を確保する。  
掘削勾配は土質による。

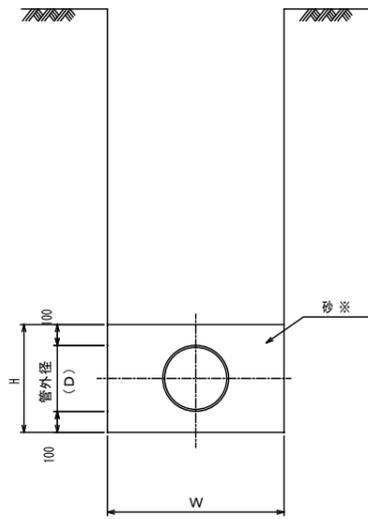
※1：図は0.08~0.45m<sup>3</sup> バックホウ使用時

※2：下水道本管の埋設表示テープ（W=150 二重折込式）は、管頂+500に設置すること。  
ただし、下水道本管で土被りが0.85mより浅い場合及び取付管の場合は、管頂+300に設置すること。

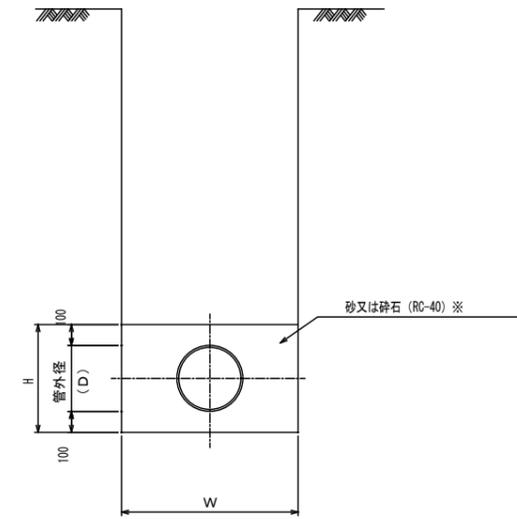
図名	土工定規図 (その2)		
分類		図番	2
	稲	沢	市

硬質塩化ビニル管・リブ付硬質塩化ビニル管砂基礎標準図

硬質塩化ビニル管砂基礎工

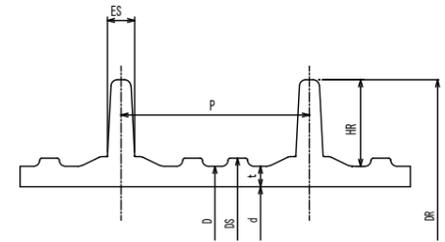
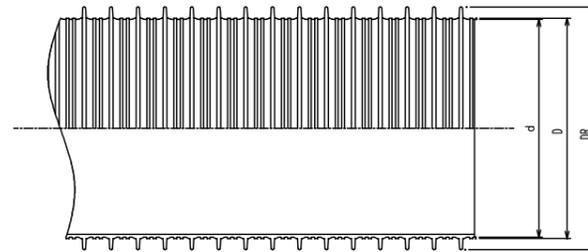


リブ付硬質塩化ビニル管砂基礎工



(単位: mm)

管径	管外径	H	摘要
150	165	370	
200	216	420	
250	267	470	
300	318	520	
350	370	570	
400	420	620	
450	470	670	
500	520	720	
600	630	830	



(単位: mm)

管径	管外径	H	リブ外径	摘要
150	155.5	360	171.0	
200	205.5	410	228.8	
250	256.1	460	286.2	
300	307.1	510	343.6	
350	357.4	560	400.6	
400	407.6	610	448.4	
450	457.8	660	502.0	

注: 上記標準図は砂基礎(砂充填角度90°、180°、360°)に砂埋戻し(管上10cm)を含む。

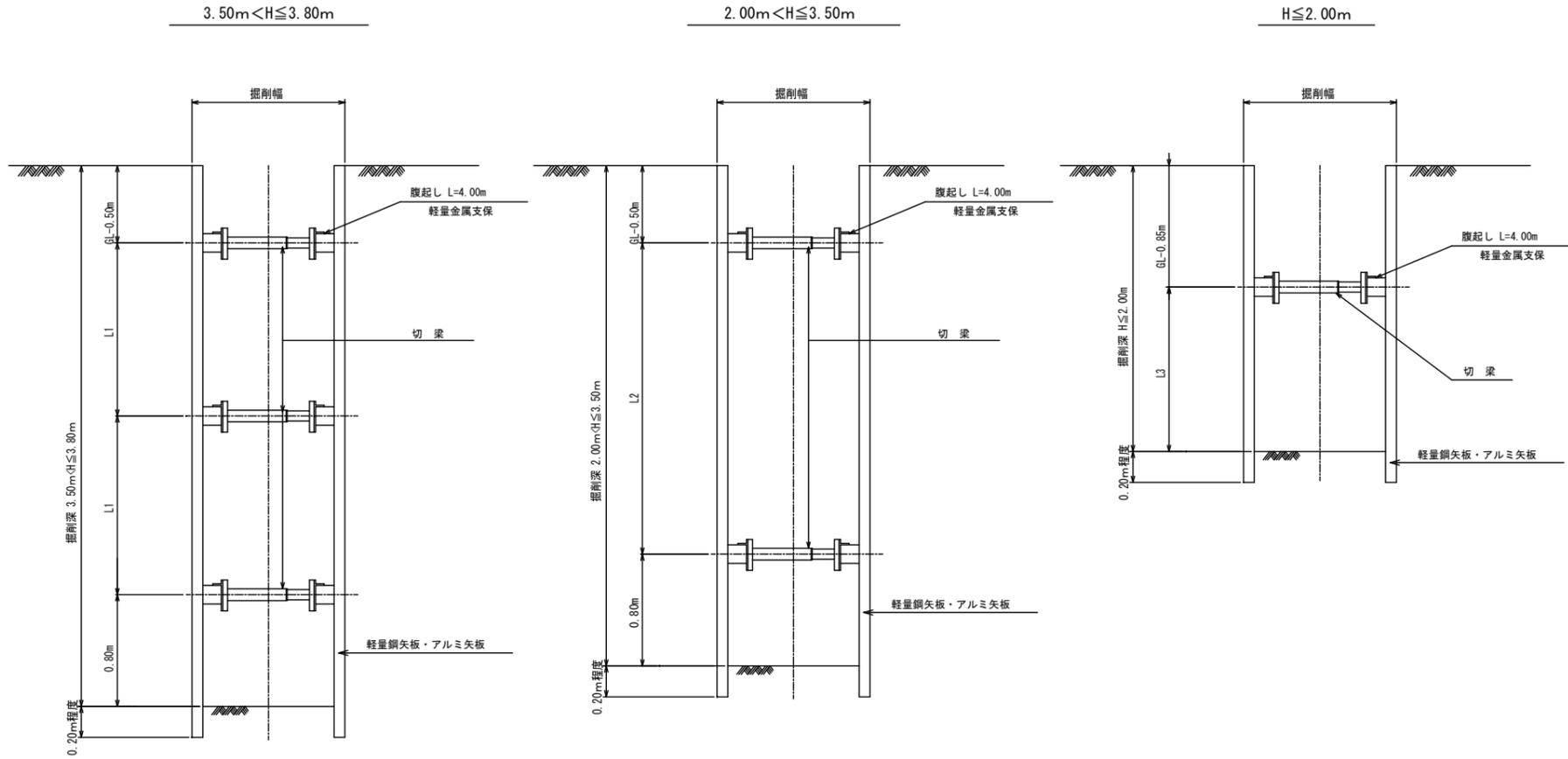
※1: 改良土、再生砂等、砂と同等品を含み、使用にあたっては、リサイクルの観点に留意する。

※2: 埋設表示テープ(W=150 二重折込式)は、管頂+500に設置すること。

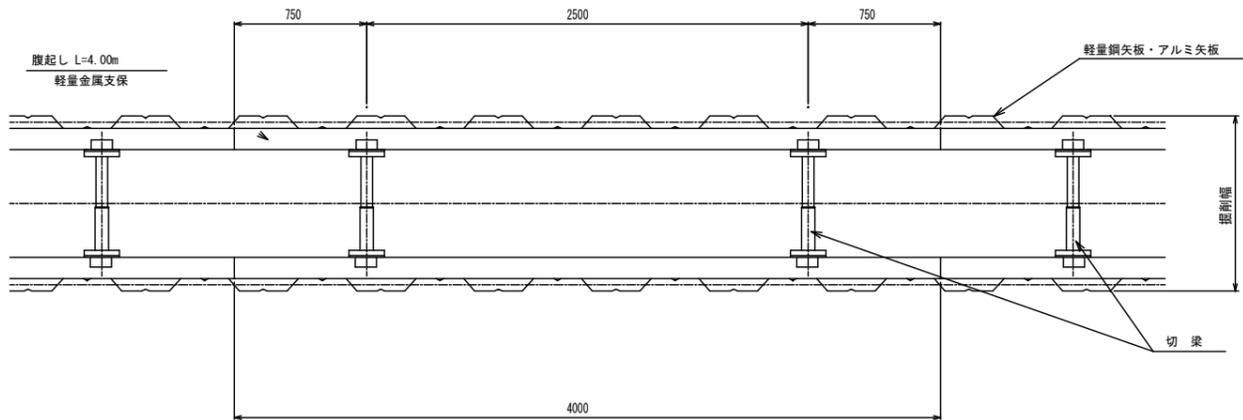
図名	硬質塩化ビニル管・リブ付硬質塩化ビニル管砂基礎標準図		
分類		図番	3
稲 沢 市			

軽量鋼矢板・アルミ矢板土留設置工標準図

断面図



平面図



計算ケースは、次のとおりとする。

掘削深	支保段数	支保工位置		
		一段目	二段目	三段目
$H \leq 2.0m$	1段	GL-0.85m	-	-
$2.0 < H \leq 3.5m$	2段	GL-0.50m	掘削底面から0.80m	-
$3.5 < H \leq 3.8m$	3段	GL-0.50m	一段目、三段目の中間	掘削底面から0.80m

土質条件及び土圧算定式

土質条件

土質区分	礫質土	砂質土	粘性土
単位重量	$\gamma = 20kN/m^3$	$\gamma = 19kN/m^3$	$\gamma = 18kN/m^3$
粘着力	$C = 0$	$C = 0$	$C = 25kN/m^2$
せん断摩擦角	$\phi = 35^\circ$	$\phi = 30^\circ$	$\phi = 0$

上載荷重: 10 kN/m<sup>2</sup>

地下水位: 掘削底面以下 (水圧は考慮しない)

主働土圧の計算式は、ランキン・レザール式を採用する。

支保工荷重分担は、下方分担法を採用する。

軽量鋼矢板・アルミ矢板設置基準

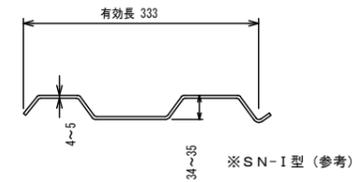
掘削深	支保工段数	腹起し	切梁
2.00m以下	1段支保	断面係数 120cm <sup>3</sup> 以上	水圧式又はネジ式
2.00mより大きく 3.50m以下	2段支保		
3.50mより大きく 3.80m以下	3段支保		

軽量金属支保工材料表

(100m、1段当り)

腹起し長さ 4 m	腹起し材	50.0本
	切梁材	50.0本

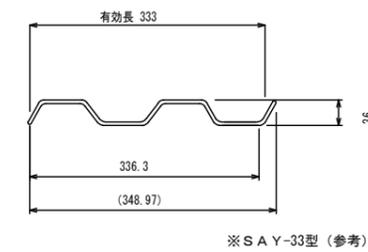
軽量鋼矢板標準図 (参考)



規格性能 (軽量鋼矢板)

矢板1枚につき	壁幅1mにつき
12.8 kg/m	38.4 kg/m <sup>2</sup>

アルミ矢板標準図 (参考)



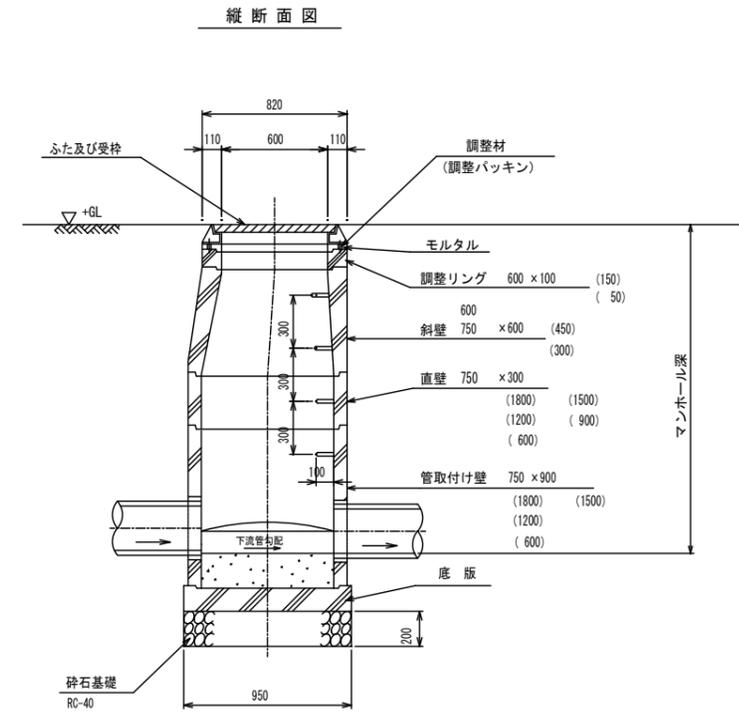
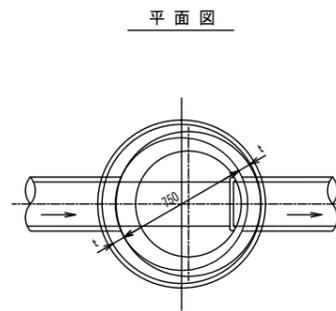
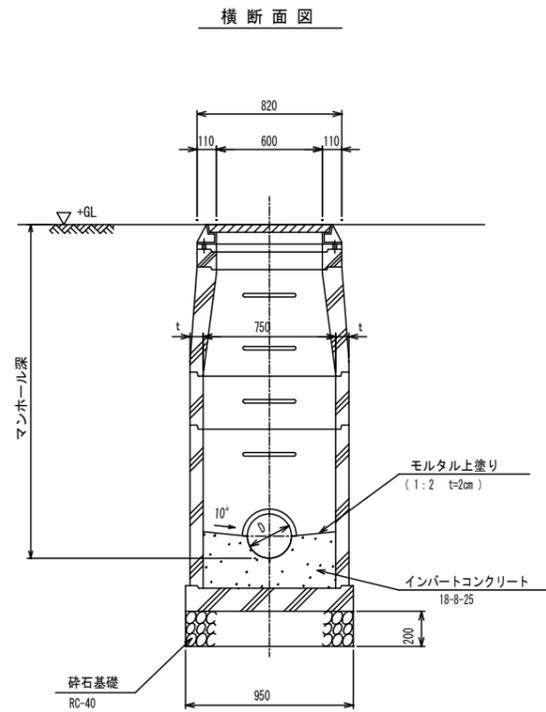
規格性能 (アルミ矢板)

矢板1枚につき	壁幅1mにつき
5.63 kg/m	16.9 kg/m <sup>2</sup>

(軽量金属支保)

図名	軽量鋼矢板・アルミ矢板土留設置工標準図		
分類		図番	4
稲 沢 市			

0号組立マンホール標準図



底部工材料表

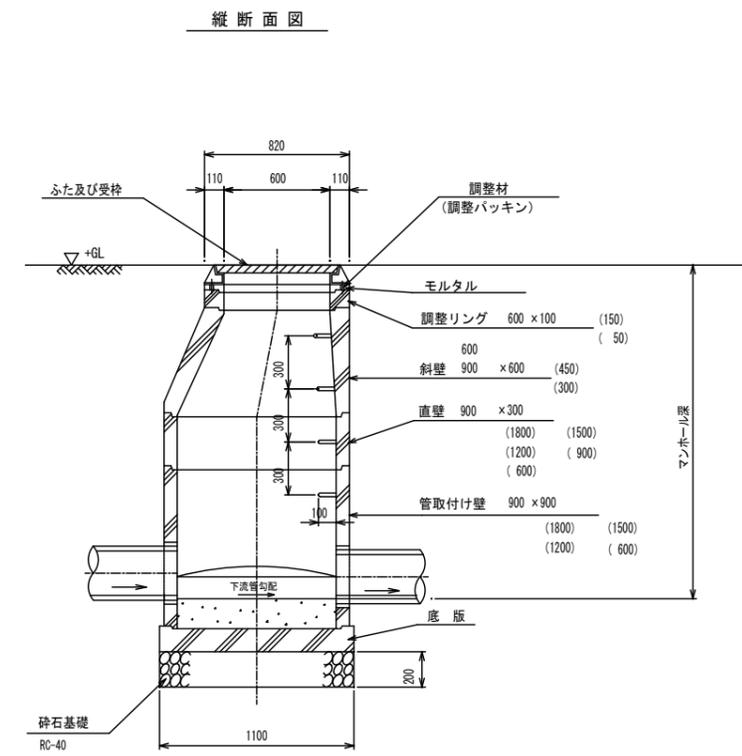
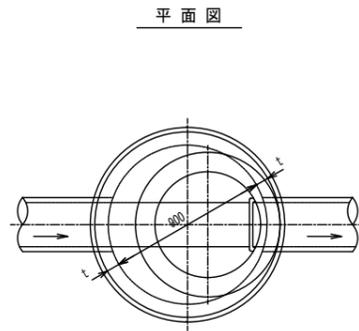
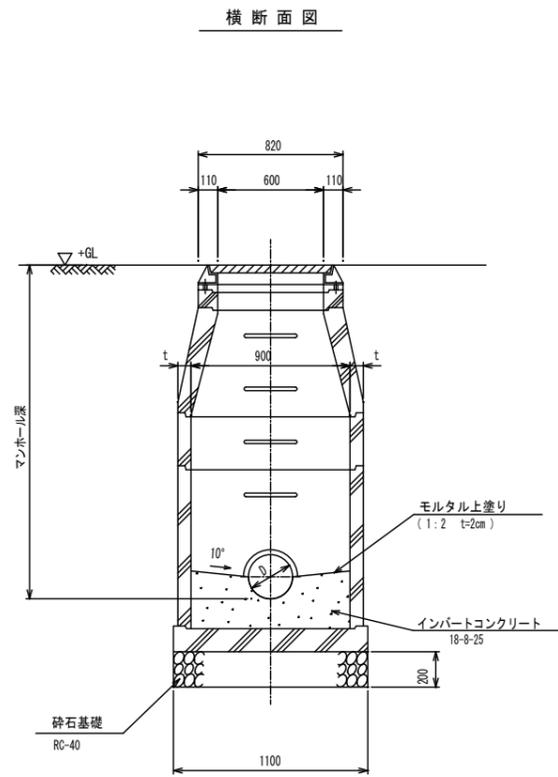
1箇所当り

種別	形状・寸法	計算式	単位	数量
砕石基礎	RC-40	$\pi/4 \times 0.95^2$	m <sup>2</sup>	0.7
コンクリート	18-8-25	インバート部	m <sup>3</sup>	0.12
モルタル上塗り	1:2 t=2cm		m <sup>2</sup>	0.55

注：壁厚tは「JSWAS-A-11」を参照のこと。

図名	0号組立マンホール標準図		
分類	図番	5	
稲 沢 市			

1号組立マンホール標準図



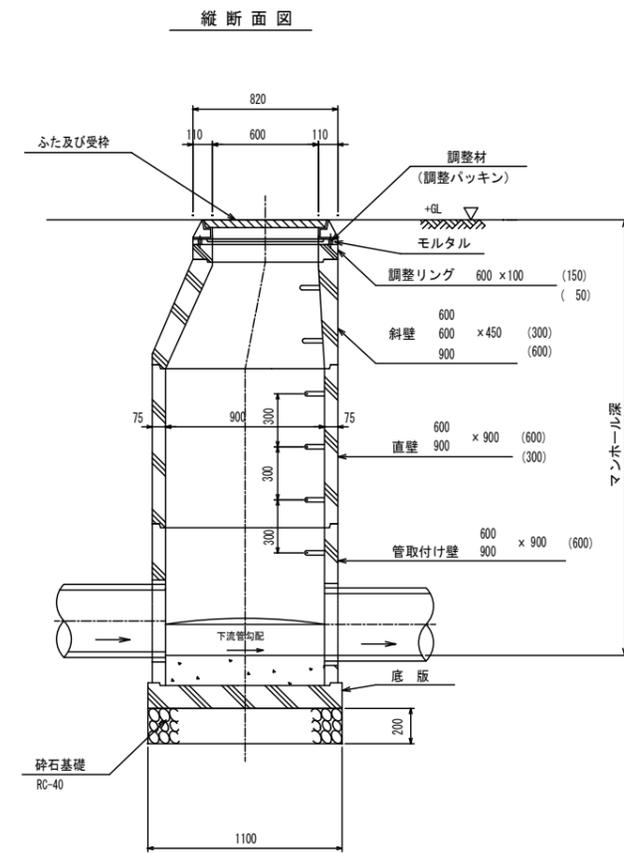
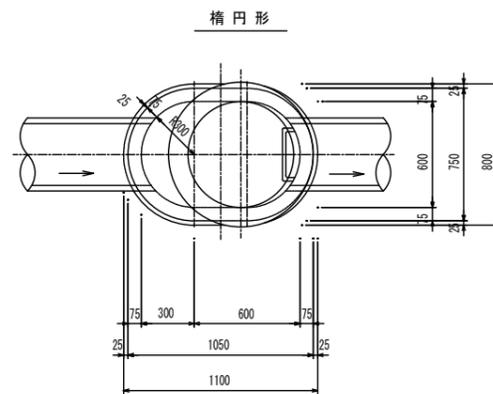
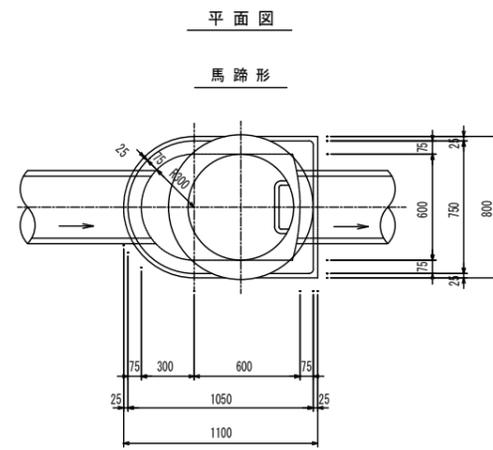
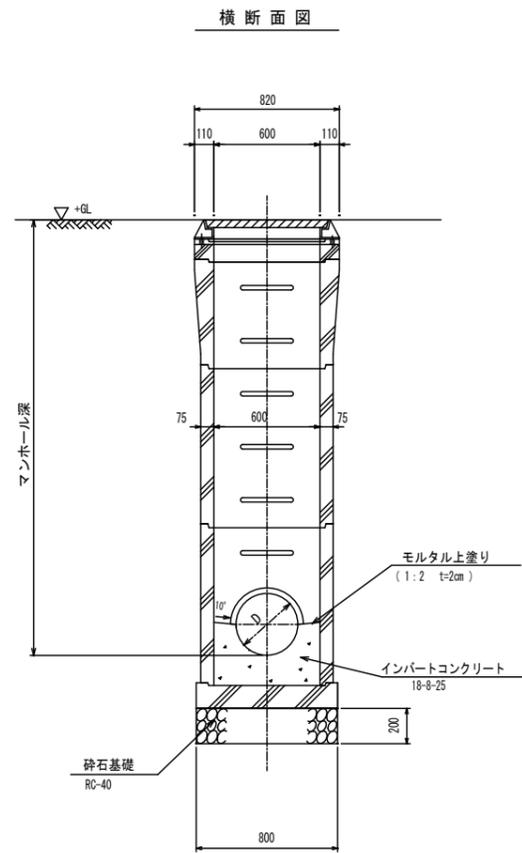
底部工材料表 1箇所当り

種別	形状・寸法	計算式	単位	数量
砕石基礎	RC-40	$\pi/4 \times 1.10^2$	m <sup>2</sup>	1.0
コンクリート	18-8-25	インバート部	m <sup>3</sup>	0.18
モルタル上塗り	1:2 t=2cm		m <sup>2</sup>	0.84

注：壁厚tは「JSWAS-A-11」を参照のこと。

図名	1号組立マンホール標準図		
分類		図番	6
稲 沢 市			

馬蹄 (A1号) ・楕円形 (E1号) 組立マンホール標準図



底部工材料表 (馬蹄形)

1箇所当り

	形状・寸法	計算式	単位	数量
砕石基礎	RC-40	$0.8 \times 0.7 + \pi / 4 \times 0.80^2 / 2$	m <sup>2</sup>	0.8
コンクリート	18-8-25	インバート部	m <sup>3</sup>	0.12
モルタル上塗り	1:2 t=2cm		m <sup>2</sup>	0.58

底部工材料表 (楕円形)

1箇所当り

	形状・寸法	計算式	単位	数量
砕石基礎	RC-40	$\pi / 4 \times 0.80 + 0.8 \times 0.3$	m <sup>2</sup>	0.7
コンクリート	18-8-25	インバート部	m <sup>3</sup>	0.11
モルタル上塗り	1:2 t=2cm		m <sup>2</sup>	0.55

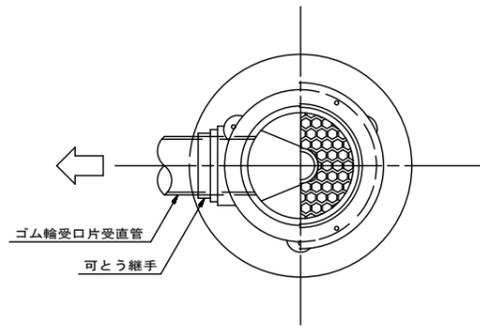
(参考図)

図名	馬蹄(A1号)・楕円形(E1号)組立マンホール標準図		
分類		図番	7
稲 沢 市			

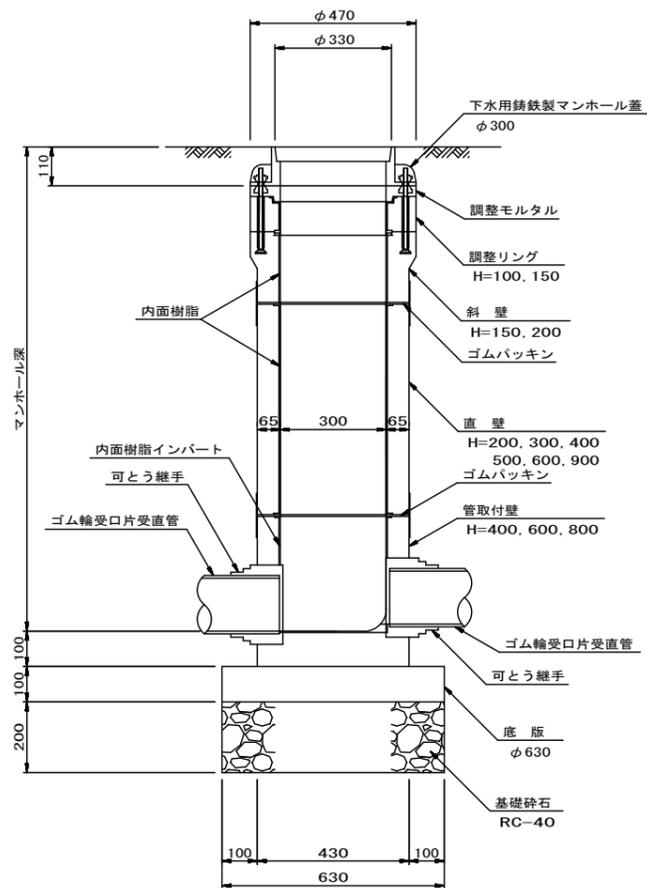
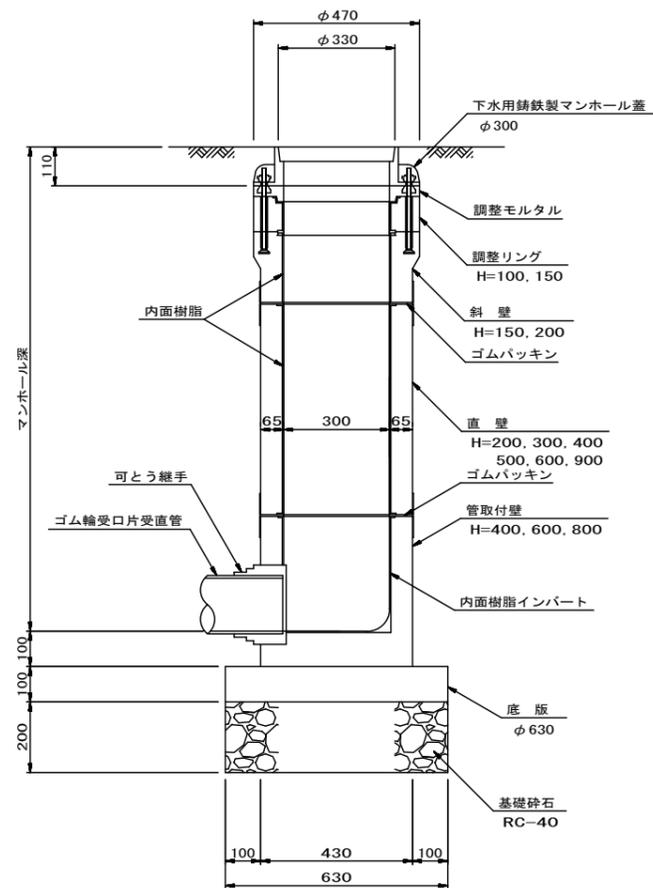
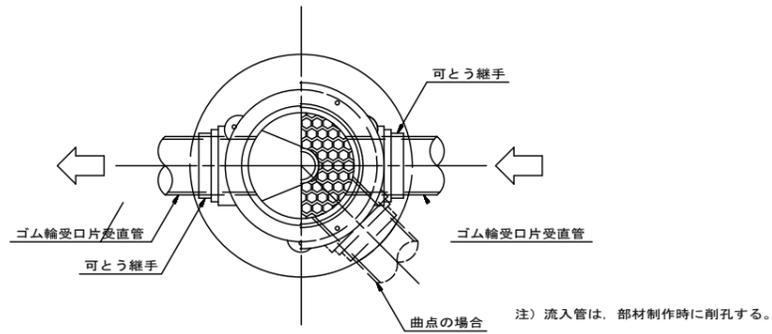
小口径マンホール構造図（コンクリート製）

S=1:10

起点



中間点 曲点

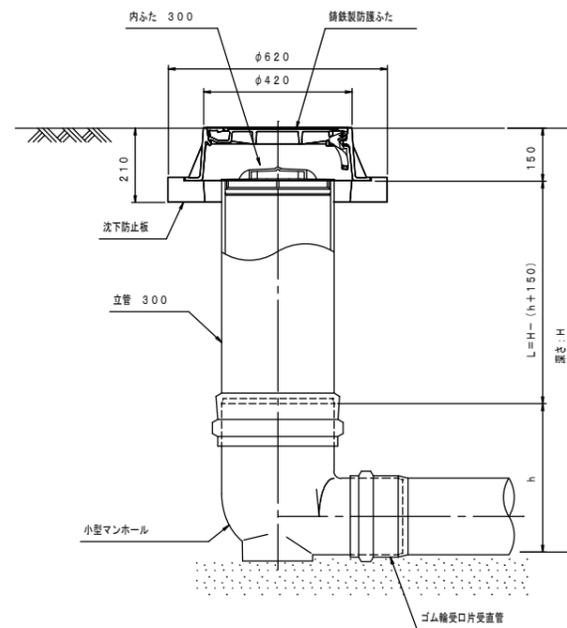
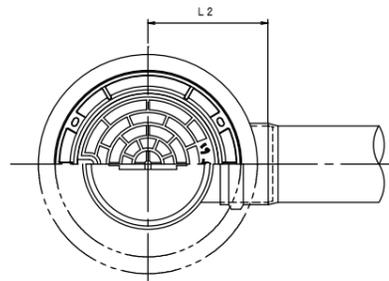


※ ブロック間の接合はボルト結合とする。

図面名称	小口径マンホール構造図（コンクリート製）
縮尺	1:10
図面番号	8
稲 沢 市	

# 小口径マンホール構造図（塩化ビニル製）

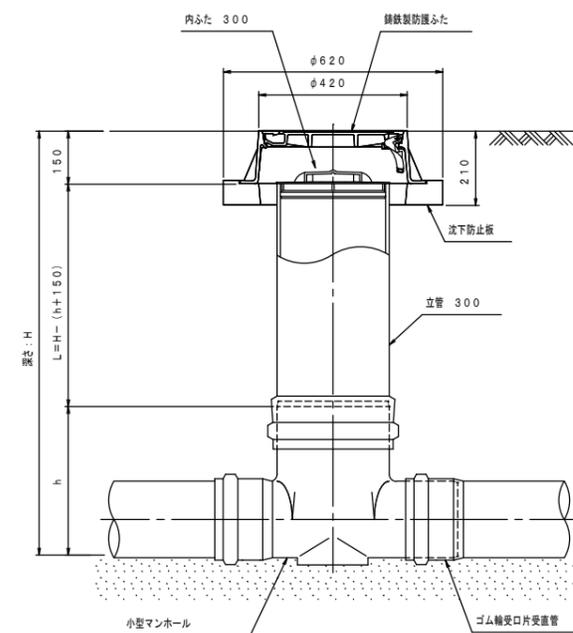
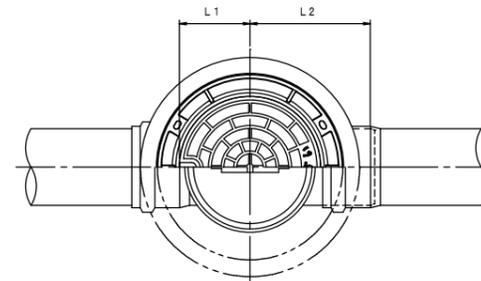
起点



起点

本管径	インバート		所用立管長
	L <sub>2</sub>	h	L (m)
φ150	310	370	H-0.52
φ200	340	420	H-0.57

中間形式



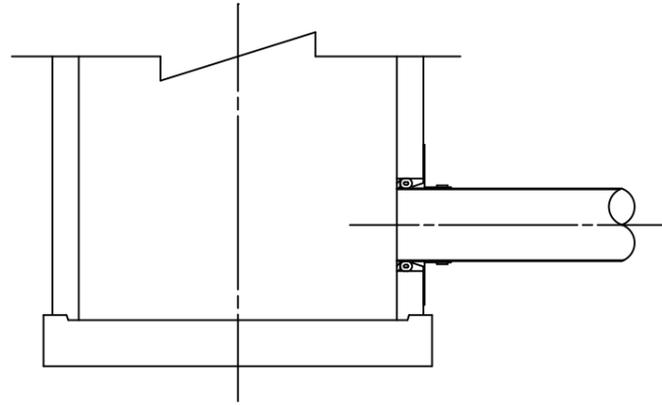
中間形式

本管径	インバート			屈曲角度 (θ)		所用立管長 L (m)
	L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>	h	本管自在なし	本管自在使用	
φ150	200	310	370	0° ±1'	0° ~15'	H-0.52
	210	310	370	15° ±1'	15° ~30'	
	220	320	370	30° ±1'	30° ~45'	
	220	320	370	45° ±1'	45° ~60'	
	230	330	370	60° ±1'	60° ~75'	
	250	350	370	75° ±1'	75° ~90'	
	270	370	370	90° ±1'	(90° ~105')	
φ200	200	340	420	0° ±1'	0° ~15'	H-0.57
	210	340	420	15° ±1'	15° ~30'	
	220	350	420	30° ±1'	30° ~45'	
	220	350	420	45° ±1'	45° ~60'	
	230	360	420	60° ±1'	60° ~75'	
	250	380	420	75° ±1'	75° ~90'	
	270	400	420	90° ±1'	(90° ~105')	

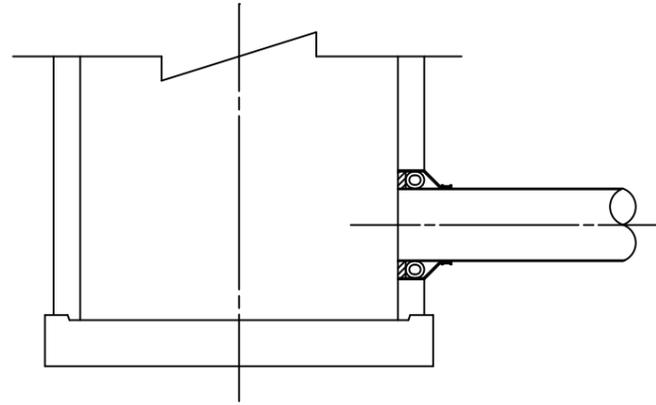
マンホール用可とう継手構造図 (参考図)

S=1:10

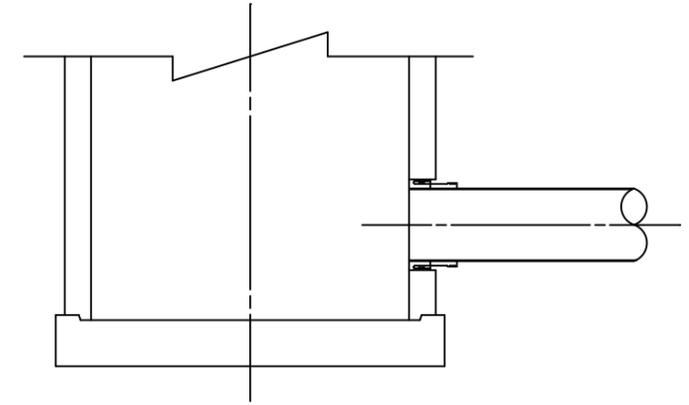
外壁面接着タイプ



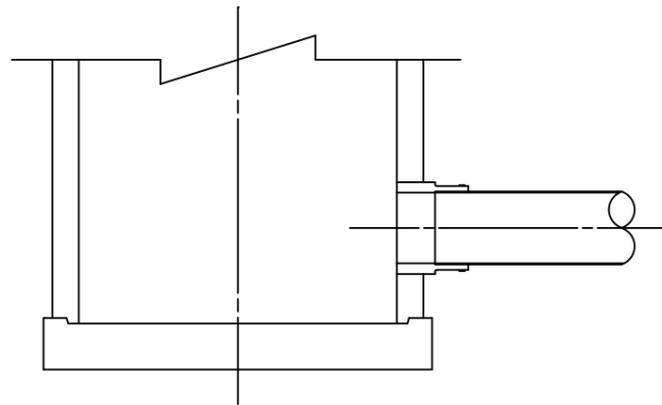
拡径圧着タイプ(1)



拡径圧着タイプ(2)



埋込タイプ

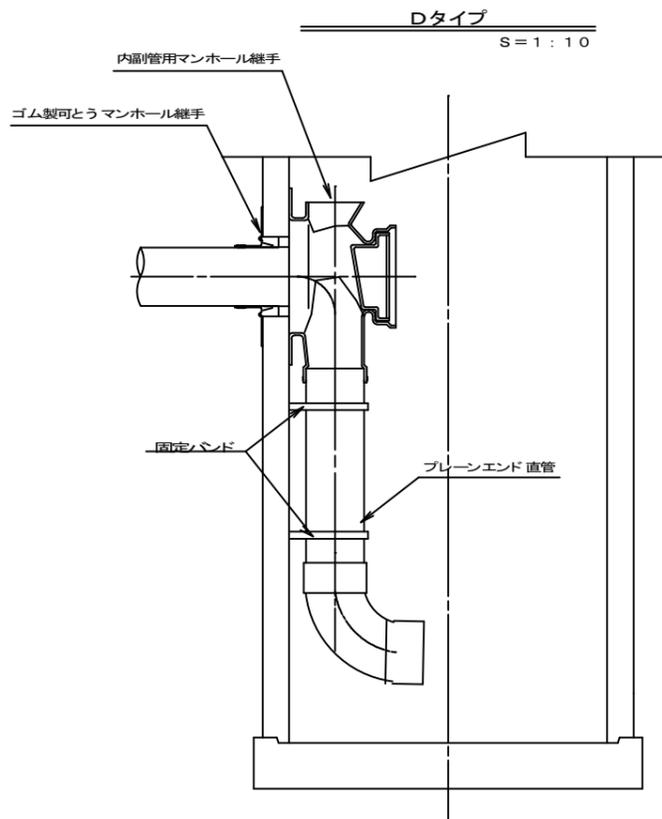
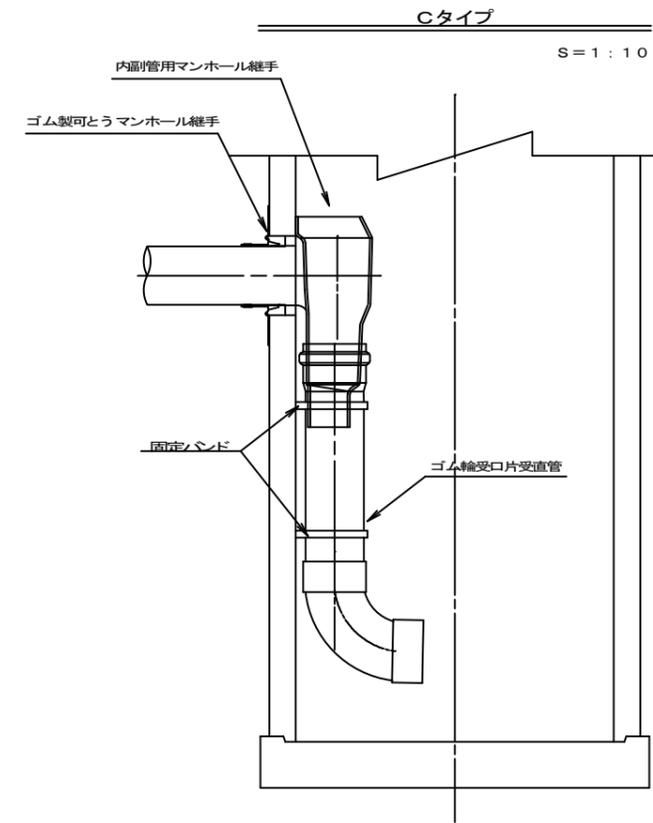
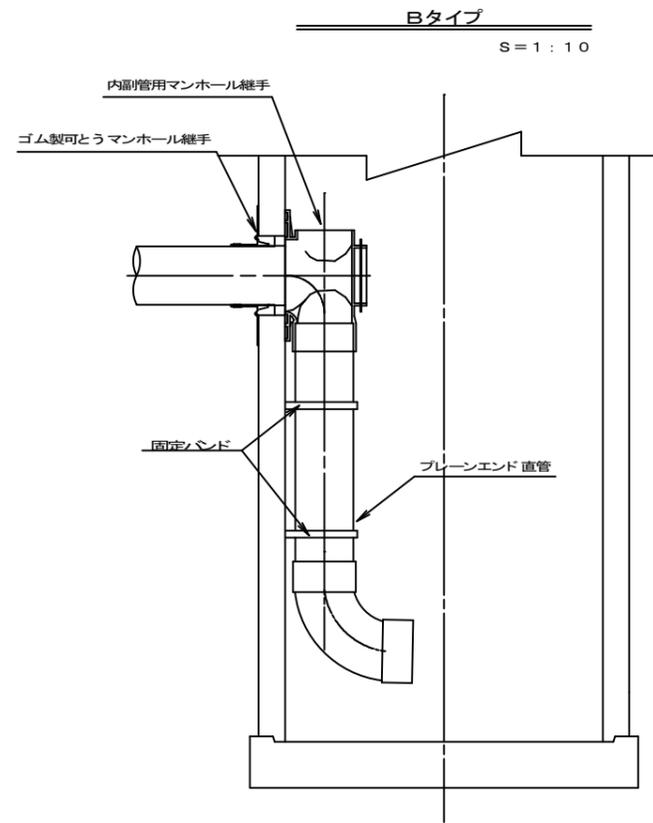
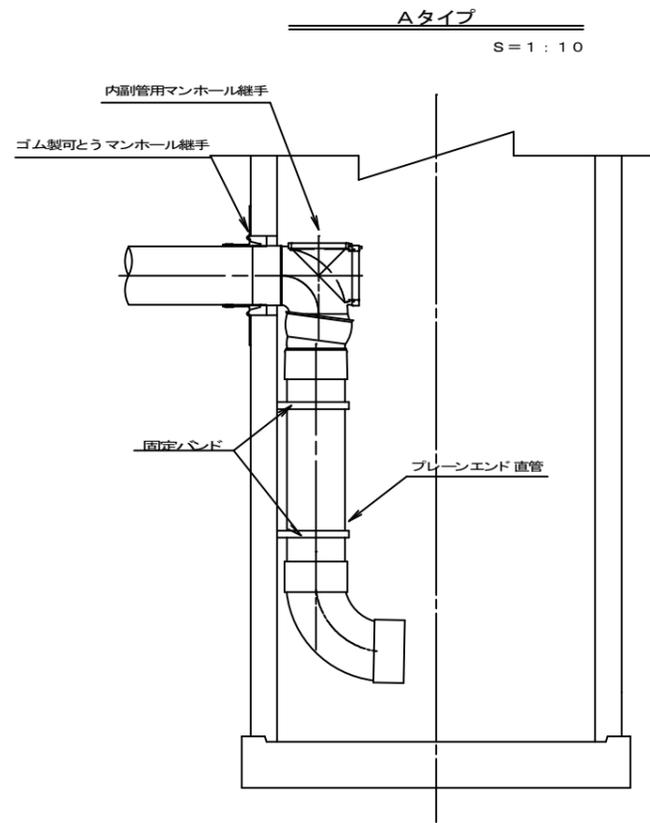


図面名称	マンホール用可とう継手構造図 (参考図)
縮尺	1:10
図面番号	10
稲 沢 市	

マンホール用内副管継手構造図及び外副管工詳細図

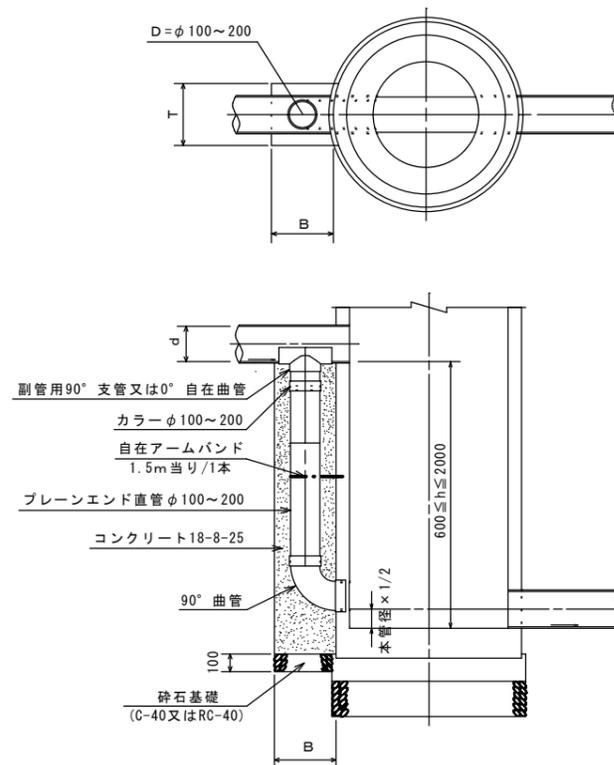
(内副管:コンパクトタイプ)

S=1:10



外副管

S=1:F

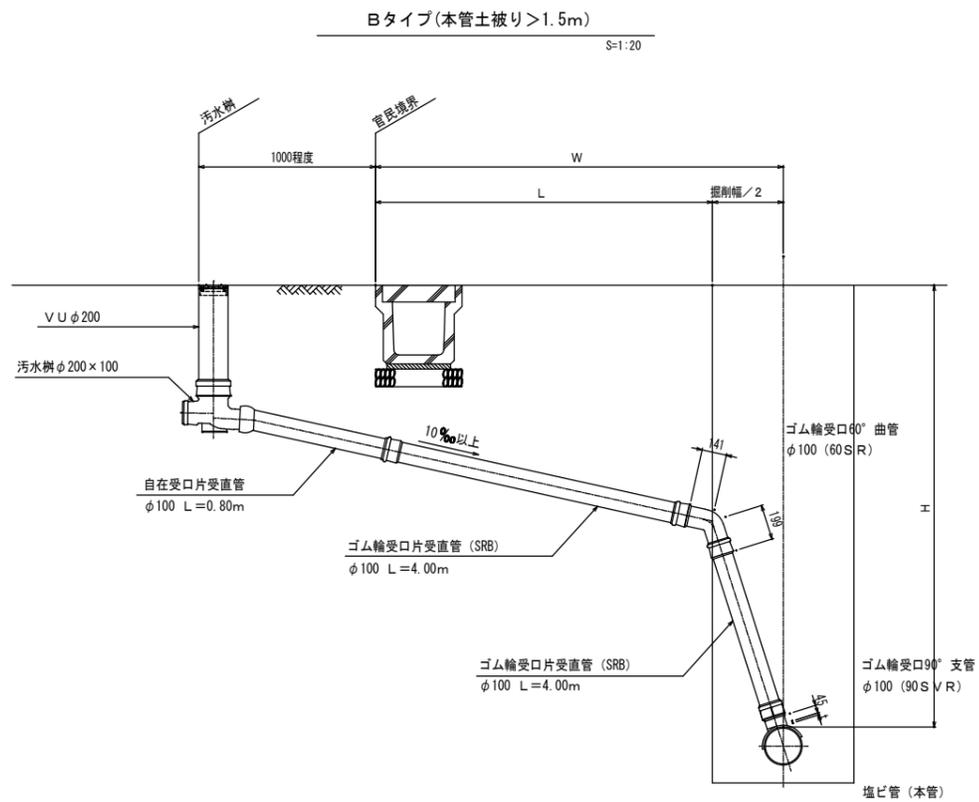
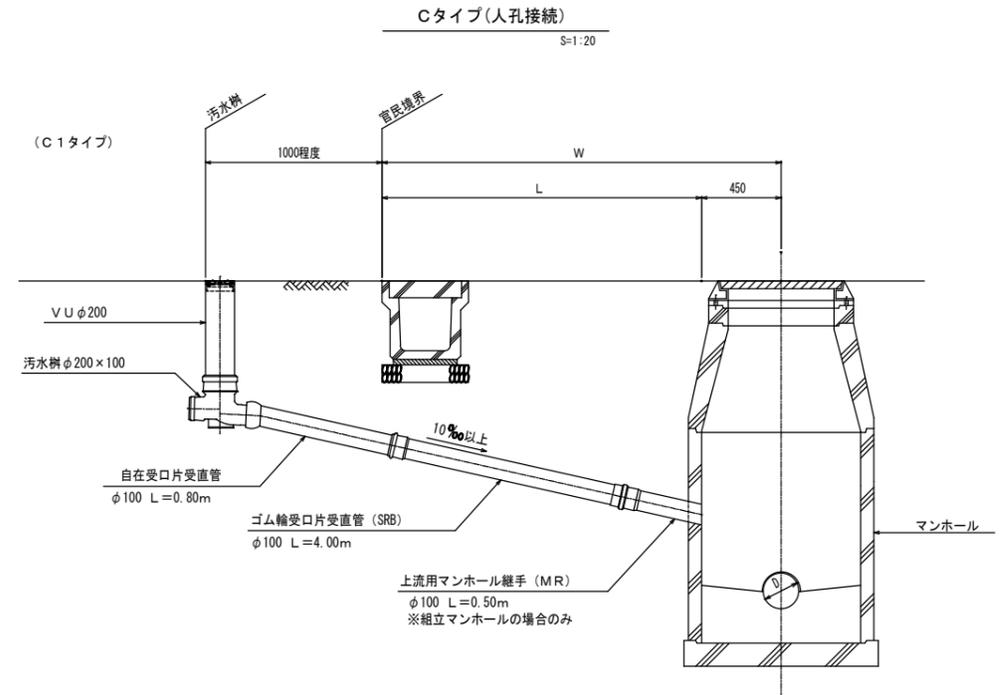
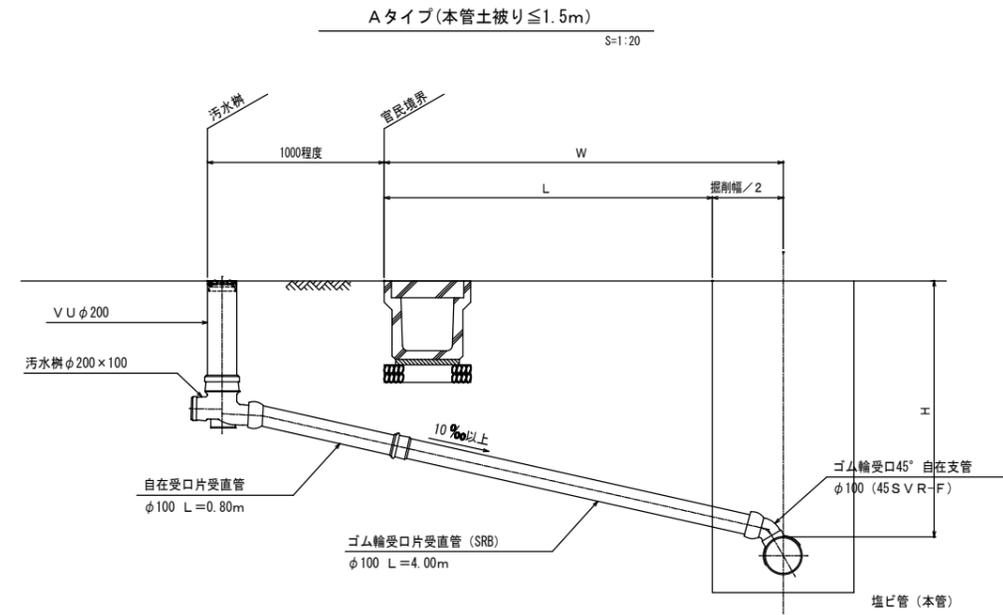


本管径	副管		
	D	B	T
d			
150	100	300	300
200	150	350	350
250~400	200	400	400

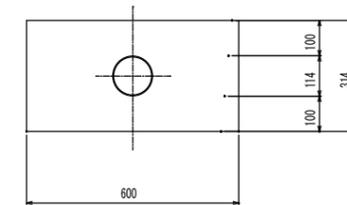
※流入管が計画管の場合は90°支管は付けずキャップ止めとする。  
アームバンドは必要に応じて計上(キャップ止めの場合等)する。

図面名称	マンホール用内副管継手構造図 及び外副管工詳細図
縮尺	図示
図面番号	11
稲 沢 市	

汚水取付管布設標準図



汚水取付管断面図  
S=1:10



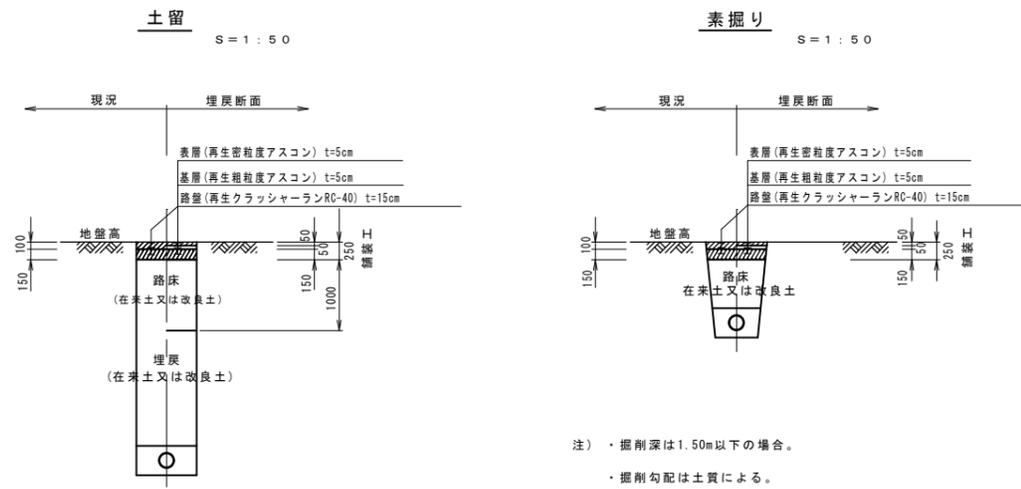
※0.28m バックホウ使用例

※ 取付管の埋設表示テープについては、管頂+300に設置すること。

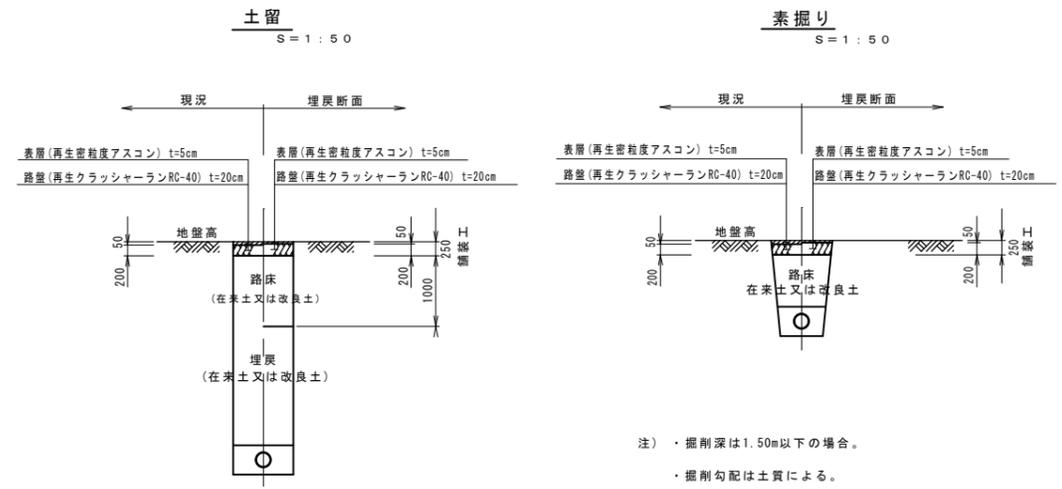
(本管塩ビ管)

図名	汚水取付管布設標準図		
分類	図番	12	
稲 沢 市			

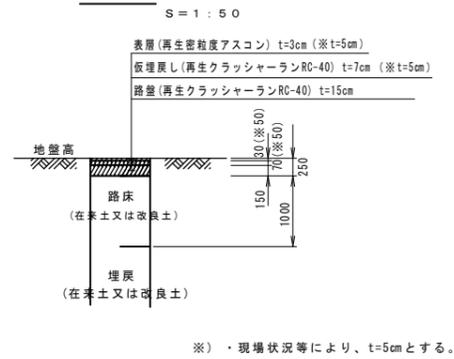
一・二級市道



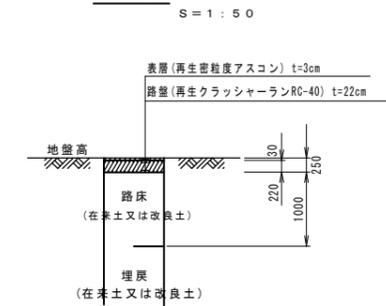
一般市道



仮舗装



仮舗装

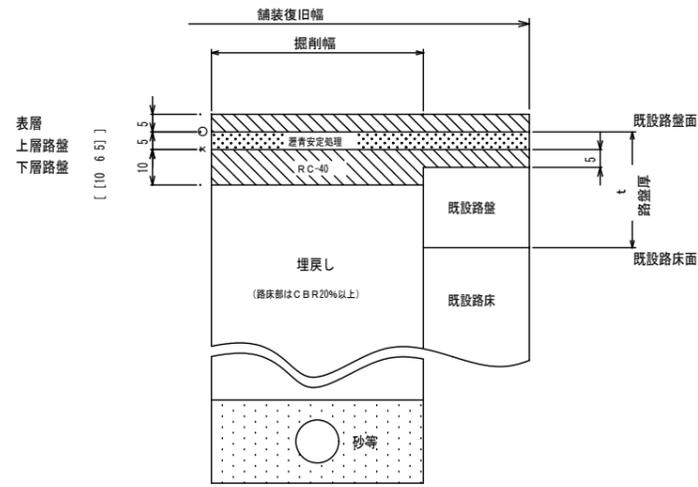


図面名称	市道舗装復旧詳細図
縮尺	図示
図面番号	13
稲 沢 市	

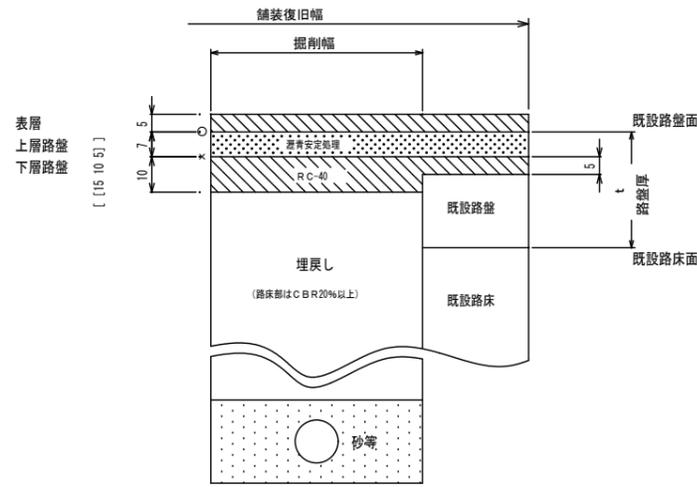
県道舗装復旧詳細図 (その1)

※ 舗装復旧は現況復旧を原則とし不明な場合、これを参考とする。

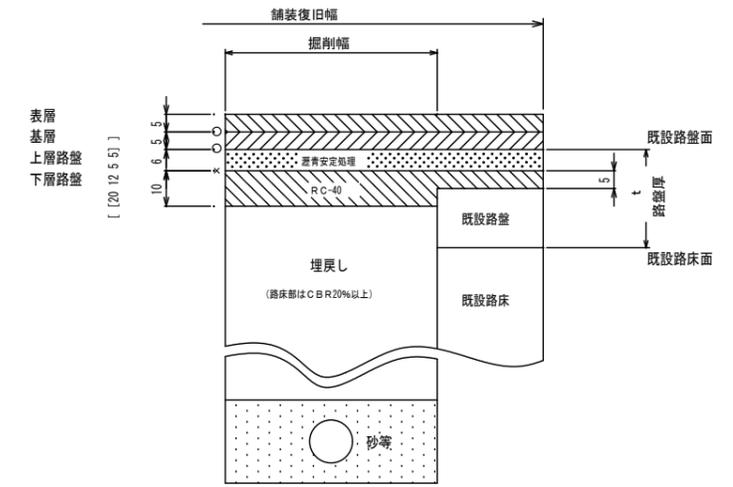
1. L交通



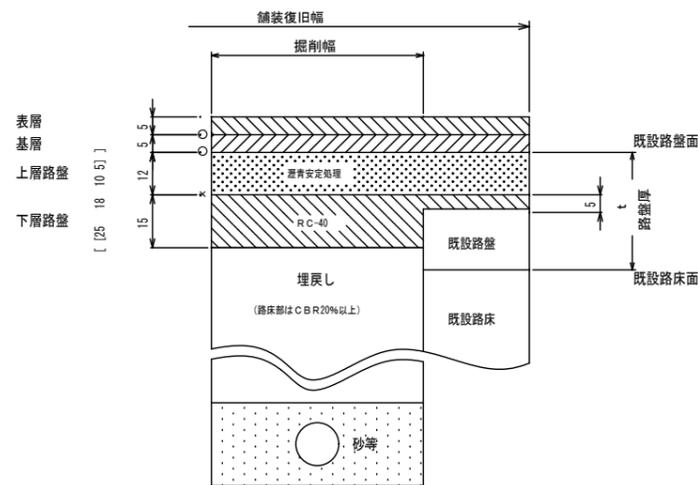
2. A交通



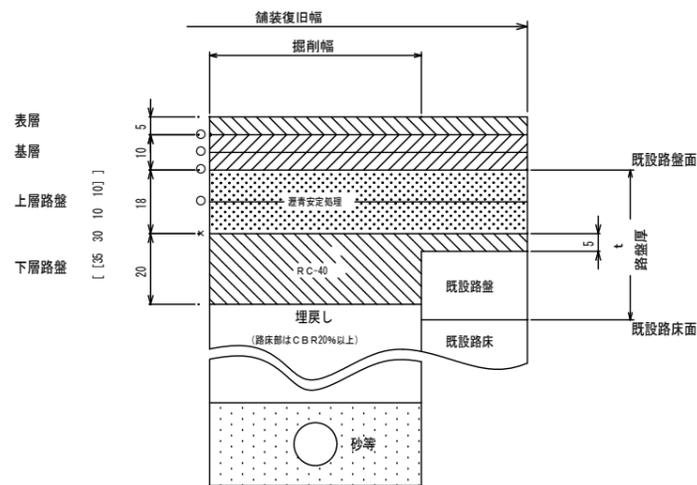
3. B交通



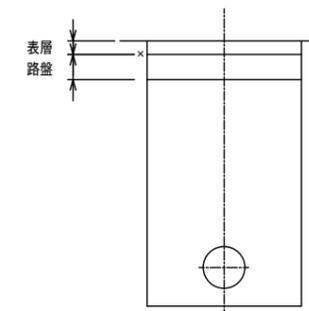
4. C交通



5. D交通



6. 仮舗装



(凡例)

土被り別舗装構成の表示方法

かっこなし：土被り1.2m (1.2m以上)

[ ]：土被り0.8m (0.8mを超え1.2m未満)

密粒A S

粗粒A S

瀝青安定処理

粒度調整砕石 (M-25) 又は 再生クラッシュラン (RC-40)

コンクリート版

インターロッキングブロック

○：タックコート

×：プライムコート

—：2層仕上げ

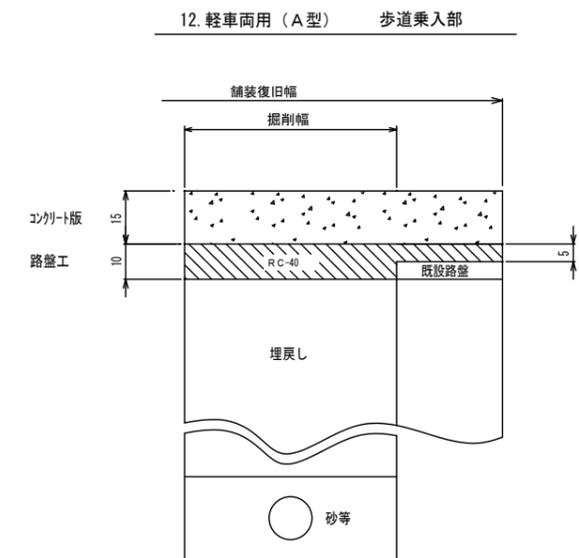
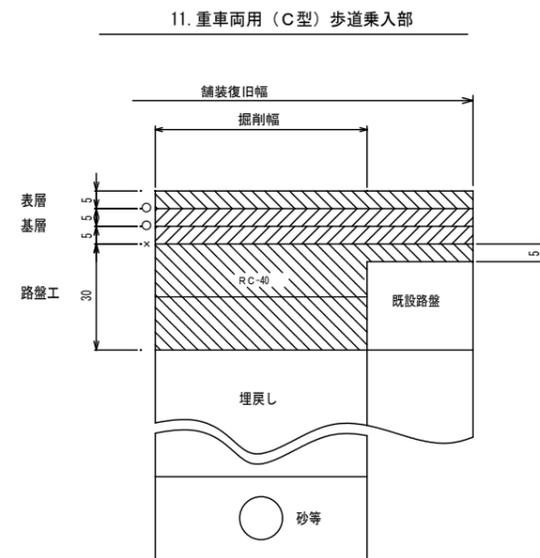
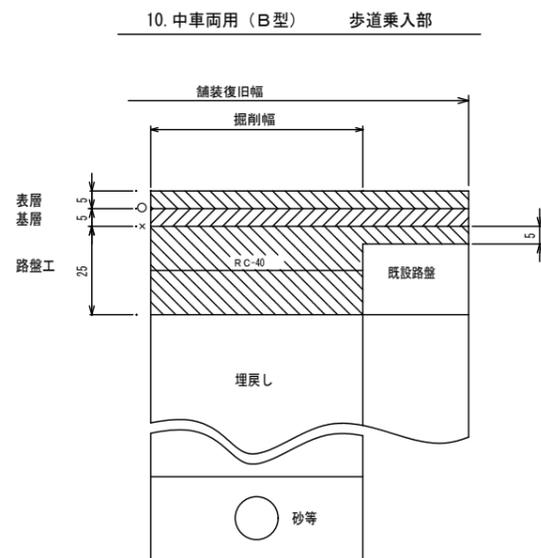
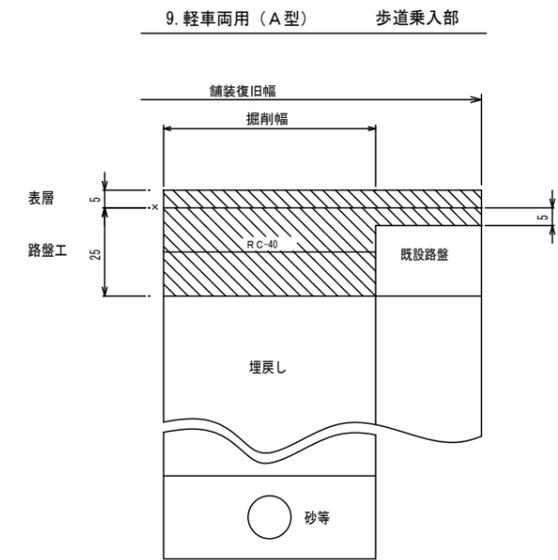
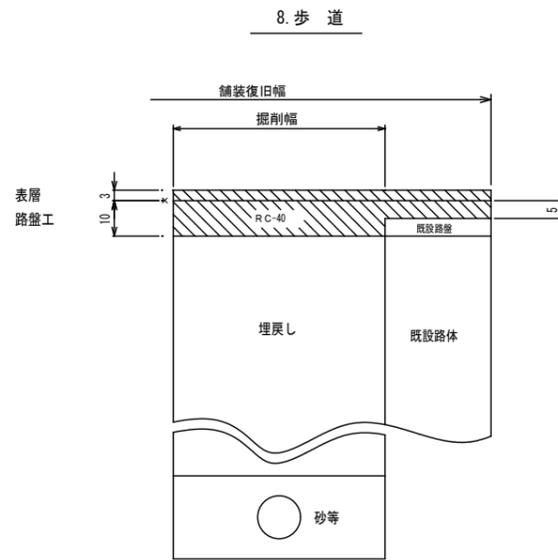
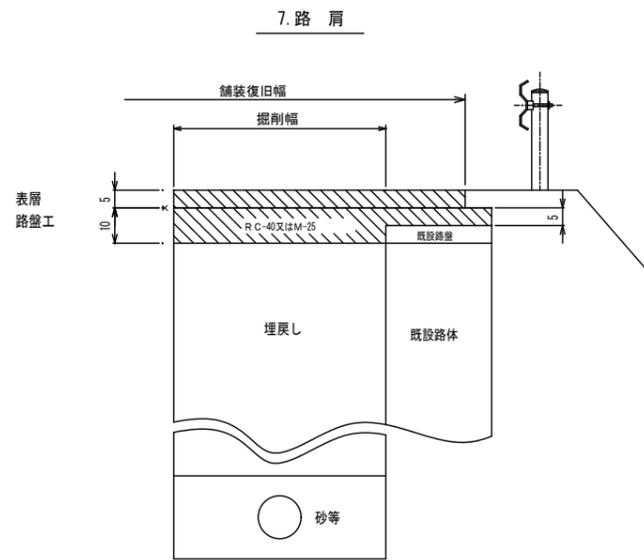
交通量の区分	大型車交通量	表層厚	摘要
車道	L, A交通 250台/日・1方向未満	3cm	大型車交通量 (台/日・1方向) = 大型車交通量 (台/12h) × 昼夜率 × 1/2 大型車交通量 (台/12h) は、道路交通センサスを参照。 昼夜率は、「建設部 道路構造の手引き」参照。
	B, C, D交通 250台/日・1方向以上	5cm	
歩道	—	3cm	

※使用材料は、原則として表層については加熱アスファルト混合物、路盤については再生クラッシュラン (RC-40) 及びそれと同等以上のものとする。

図名	県道舗装復旧詳細図 (その1)		
分類		図番	14
稲 沢 市			

県道舗装復旧詳細図 (その2)

※. 舗装復旧は現況復旧を原則とし不明な場合、これを参考とする。



(凡例)

土被り別舗装構成の表示方法

- かっこなし : 土被り1.2m (1.2m以上)
- [ [ ] ] : 土被り0.8m (0.8mを超え1.2m未満)
- : 密粒AS
- : 粗粒AS
- : 瀝青安定処理

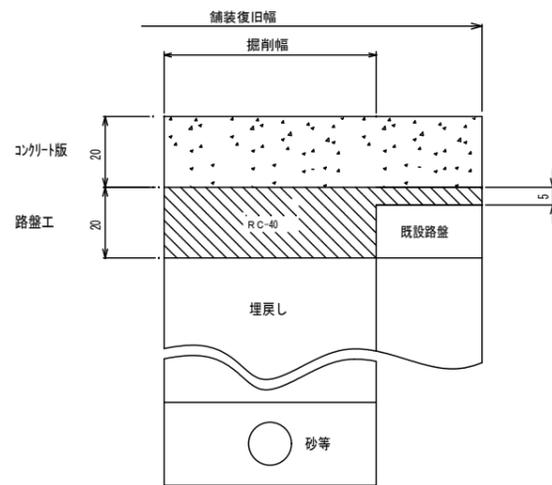
- : 粒度調整砕石 (M-25) 又は 再生クラッシュラン (RC-40)
- : コンクリート版
- : インターロックブロック
- : タックコート
- x : プライムコート
- : 2層仕上げ

図 名	県道舗装復旧詳細図 (その2)		
分 類		図 番	15
稲 沢 市			

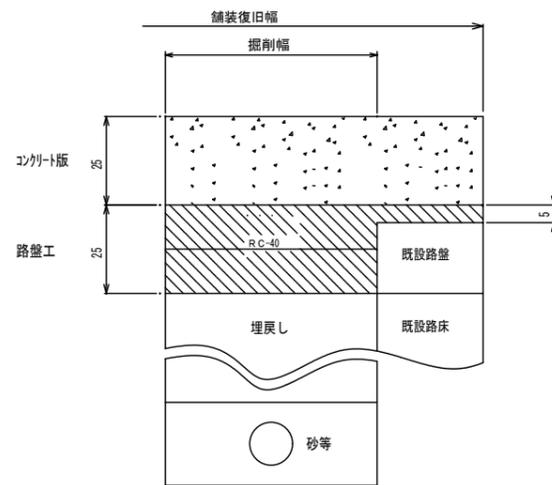
県道舗装復旧詳細図 (その3)

※: 舗装復旧は現況復旧を原則とし不明な場合、これを参考とする。

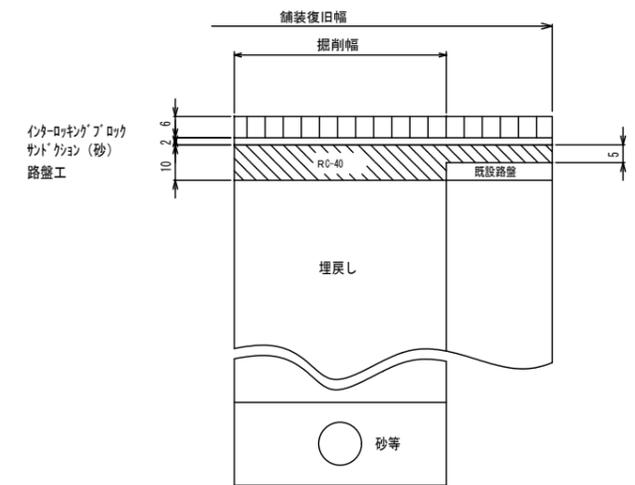
13. 中車両用 (B型) 歩道乗入部



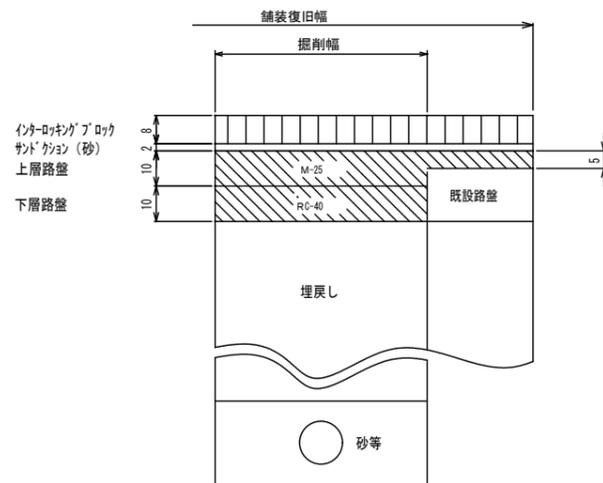
14. 重車両用 (C型) 歩道乗入部



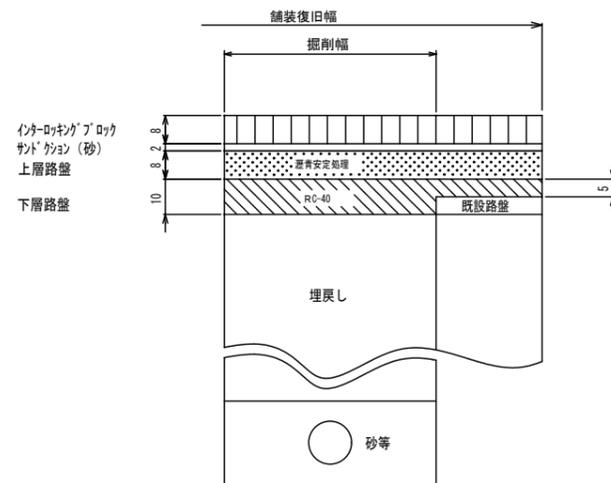
15. 歩道



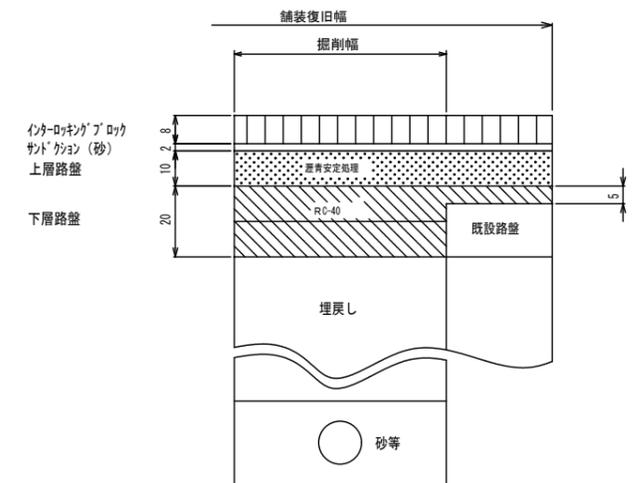
16. 軽車両用 (A型) 歩道乗入部



17. 中車両用 (B型) 歩道乗入部



18. 重車両用 (C型) 歩道乗入部



(凡例)

土被り別舗装構成の表示方法

かっこなし: 土被り1.2m (1.2m以上)	斜線: 粒度調整碎石 (M-25) 又は 再生クラッシュラン (R-C-40)
[ [ ] ] : 土被り0.8m (0.8mを超え1.2m未満)	点線: コンクリート版
縦線: 密粒AS	格子線: インターロッキングブロック
斜線: 粗粒AS	○: タックコート
点線: 瀝青安定処理	×: プライムコート
	—: 2層仕上げ

図名	県道舗装復旧詳細図 (その3)		
分類	図番	16	
稲 沢 市			